

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 28 日現在

機関番号：14101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24530814

研究課題名(和文)協同学習への動機づけにおける動的プロセスの解明

研究課題名(英文)Research on the dynamic motivational processes in cooperative learning

研究代表者

中西 良文(NAKANISHI, Yoshifumi)

三重大学・教育学部・准教授

研究者番号：70351228

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、協同学習への動機づけにおける動的プロセスについて検討を行った。ここでの動機づけとして、協同学習において個人が課題に向き合うことが動機づけ要因となっている個人的動機づけと、他者との関わりによって生起する社会的動機づけの観点から検討を行った。いくつかの協同学習実践を取り上げて検討を行った結果、協同学習の各段階において、個人的な動機づけ・社会的動機づけについて、協同学習の進行とともにそれらの動機づけが変化していくとともに、協同学習に関わる他の要因(適応感・学習方略使用)に影響する動機づけの側面も変化することが見いだされた。最後に、これらの結果を受けて、協同学習実践の改善を試みた。

研究成果の概要(英文)：This study examined the dynamic motivational processes involved in several kinds of cooperative learning. We analyzed these processes in terms of individual factors and social factors of motivation. The results showed that individual factors and social factors of motivation changed through the process of cooperative learning. Further, the effect of motivational factors on related factors (e.g., adaptation, learning strategy use) also changed. We improved the teaching method of cooperative learning using the results of this study.

研究分野：教育心理学

キーワード：動機づけ 協同学習 動的プロセス

1. 研究開始当初の背景

近年、さまざまな形態での協同による学習が非常に盛んになってきている。このように協同学習を導入する背景の1つとして、学習者の動機づけが高まることが期待されることも多い。さて、協同による学習に関する研究として、いかなる学習効果が生み出されるのかについて、主に認知科学・学習心理学の研究において検討が進んでおり、また、社会心理学的な観点からは、集団による個人の行動への影響についても検討されている。一方で動機づけ研究においては、これまで個人が独りで学習していく過程に注目した検討や理論化が主であったため、協同学習下の動機づけについては十分な検討がされてきていない。近年では、動機づけ研究においても、社会的側面に注目する流れが見られるが(青柳, 2003) そのような視点からの研究はまだまだ知見の積み重ねが必要である。特に、協同学習の開始時から慣熟期に向けてのそれぞれの時期において、動機づけがどのように動的に変化し、それらが学習にどのように影響しているのかについて検討はほとんどない。そのため、これらの検討を進めることで、協同学習の動機づけをより有効に高めていくことが可能になるのではないかと考えられる。

2. 研究の目的

本研究では、協同学習における動機づけがその進展とともにどのように動的に変化していくのかについて検討を進める。協同学習における動的な動機づけプロセスを詳細に明らかにするためには、その時点の学習者の動機づけに関わると考えられる要因をより広くとらえ、それらの変化とともに、動機づけがどのように動的に変化するかを検討する必要がある。そこで、協同学習における動機づけやそれに関わる心理学的なプロセスについて幅広く捉えることをめざし、それに必要な測定を開発する。さらに、協同学習過程における具体的な変化を検討するためには、実際に協同学習を体験している学習者を対象とする必要があるため、実際に協同学習実践を行う、またはそのようなフィールドに関わりながら検討を進める。実践における違いに応じた実践への示唆ができると考えられる。

3. 研究の方法

本研究では、協同学習における動機づけプロセスを総合的に把握するため、これらのプロセスに関わると考えられる要因について先行研究のレビューを進めながら、それらの測定をすることができる道具の開発を進める。そして、これらを用いながら、協同学習における動機づけプロセスの各要因がそれぞれどのように相互に影響し合っているかを検討することを通して、協同学習における動機づけの動的プロセスを統合的に検討す

る。そして、それらの検討で見いだされた結果を基に、協同学習実践をいかに改善すれば良いかについて検討し、よりよい協同学習実践の構築を目指す。

さて、協同学習における動機づけ過程においては、従来の研究で扱われてきた個人がいかにその学習課題に向き合うかという個人的な動機づけ過程が存在するとともに、他者との関係の中でどのように動機づけられるかという社会的動機づけの過程も存在する。そのため、本研究での協同学習における動機づけ過程の検討の際、個人的な動機づけ要因だけでなく、社会的動機づけ過程についても取り上げて検討を進める。

これらの検討を進めるため、ある程度の種類の協同学習実践でのデータを用いた検討を進めるとともに、研究者自身が実践している大学初年次教育プログラムでの1000名規模の実践についても取り上げることで、ある程度一般性があると考えられる検討を進める。

4. 研究成果

研究目的とされていた、協同学習の動機づけにおける動的プロセスの解明に関して、以下の視点からの研究が進められた。いくつかの協同学習実践において、そこで動機づけプロセスが実際にどのように変化するかについて検討し、そこで得られた知見を元に、より動機づけの高まる実践の改善・開発を目指した。

< 協同学習場面に関する個人的動機づけに関する検討 >

協同学習における動機づけについて、まずは従来の動機づけ研究で扱われてきたような個人内の動機づけ要因について検討を行った。

まず、シナリオ型の Problem-based Learning を対象とした研究では、授業進行過程において、協同学習を一部取り入れながらも講義型授業を中心としたパートとシナリオ型の Problem-based Learning を中心としたパートでは、そこでの授業に対する利用価値が後者の方が高いことを見いだされた。さらに、課題価値と方略使用の関連に関して、シナリオ型の Problem-based Learning を中心としたパートにおいてのみ、利用価値が外部リソース方略使用を予測するという結果が見いだされた。また、シナリオ型の Problem-based Learning の各段階において、動機づけが学習方略使用をどのように予測するかが変化していくかについて検討を行ったところ、興味価値は学習方略使用全般に影響を与えている一方、利用価値についてはそれぞれの段階で特に必要であると考えられるような方略の使用を促していることを見いだされた。

中学校国語科における実践においては、協

同学習の手法の一つである LTD(Leaning Through Discussion)話し合い学習法を適用した実践を行い検討を進めた。LTD 話し合い学習法では、読解に関する8ステップの活動を行うが、これを中学生に合うように6時限での授業活動として展開するようプログラムを構成して実施した。中学2年生を対象とした実践の結果、実践開始時からステップ4が終了した時点にかけて、興味価値、自己効力感が高まっている様相が見られたとともに、自己効力感については、授業終了時にかけても有意に得点が高くなっていることが見いだされた。また、自己効力感や興味価値・利用価値といった課題価値が読解方略使用にどのように関連するかを検討したところ、初回の自己効力感が授業終了時の意味明確化やコントロールといった読解方略使用を予測していることが見いだされたとともに、ステップ4が終了した時点での利用価値が、授業終了時の読解方略の要点把握・構造注目・意味明確化・記憶・モニタリング・コントロールの読解方略使用を予測していることが見いだされた。協同学習中の行動に関わっては、実践開始時からステップ4が終了した時点にかけて、「議論を深めるための質問」「結論の掘り下げ」がより行われるようになるという様相が見られた。中学1年生を対象とした実践では、授業開始時の利用価値が意味明確化といった読解方略使用を促していることが見いだされた。

協同学習を取り入れた大学初年次教育を対象とした研究においては、入学間もない時点での自律的な動機づけの高さが前期が終了する時期での大学適応の高さと関連していることが見いだされている。

これらの結果から、協同学習中の動機づけはそのときどきで学習方略使用や適応に異なった影響を与えることが見いだされたと考えられる。

＜協同学習に関する社会的動機づけに関する検討＞

本研究では、協同学習場面に特有の動機づけであると考えられる社会的な動機づけについても検討を進めた。まず、協同学習場面における社会的な動機づけを測定するため、中西・村松・松岡(2006)で作成された尺度を参考にしながら、新たに項目を作成した。154名の大学生を対象に調査を行い、探索的因子分析を施した結果、「他者からの刺激による動機づけ」、「メンバーからの被評価動機」、「メンバーからの被嫌悪回避動機」、「グループに対する被評価動機」、「グループに対する貢献動機」と命名できる5因子解が見いだされた。さらに、因子構造についてより詳細な検討を行うため、1021名の大学生から得られた調査結果を用いて、確認的因子分析を行った。探索的因子分析で得られた「グループに対する貢献動機」を除外し、「他者からの知識影響に対する動機」因子を設定し、「他者からの刺激による動機づけ」を「他者から

の触発による動機づけ」因子と「他者援助動機」因子と分けて検討したところ、十分な適合度が得られた。これらの結果を参考に、「他者からの触発による動機づけ」、「他者援助動機」、「メンバーからの被評価動機」、「メンバーからの被嫌悪回避動機」、「グループに対する被評価動機」、「他者からの知識影響に対する動機」の6下位尺度からなる協同学習に関する社会的動機づけ尺度を構成することとした。

続いて、それらの協同学習に関する社会的動機づけの観点から動機づけプロセスがどのように動的に変化するかを検討した。まず、協同学習に関する社会的動機づけがProject-based Learning(PBL)の中でどのように変化し、そこでのメタ認知方略にどう影響していくかを検討した。その結果、「メンバーからの被評価動機」がPBL後半で高くなる様相が見られた。また、メタ認知方略の1つであるモニタリングは、PBL前半では他者からの刺激による動機づけによる影響を強く受けていたのに対し、PBL後半では「グループに対する貢献動機」の影響を強く受けているという結果が見いだされた。プランニングに関しては、PBL前半での「他者からの刺激による動機づけ」、「グループに対する貢献動機」が前半・中盤・後半におけるプランニングを予測していたとともに、PBL前半での「メンバーからの被評価動機」は前半・中盤におけるプランニングを予測していた。

続いて、大学初年次教育における協同学習場面において、協同学習に関する社会的動機づけがどのように変化し、そこでの適応感にどう影響していくかを検討した。その結果、開始時から終了時にかけて「メンバーからの被評価動機」において得点が高くなる様相が見られた一方、「他者援助動機」「他者からの知識影響に対する動機」においては得点の下降が見られた。また、適応感に関しては、「他者からの触発による動機づけ」「他者からの知識影響に対する動機」が影響していることが見いだされた。

これらの結果から、協同学習開始時から終了時にかけて「メンバーからの被評価動機」が高まる様相が見られるとともに、他者からの刺激を受けるということに関する動機づけが望ましい他の側面と関連があることが見いだされた。そこで、これらの結果を協同学習の実践に関するプログラム開発につなげるということで、協同学習を取り入れ大学初年次教育に関わる授業プログラムにおいて、他者の考えや活動の様子が目に見えるようにするという観点から、そのような活動を授業活動の中に取り入れるに至った。また、授業終了時において、他のメンバーからの評価を受けるような活動も取り入れている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 12 件)

1. 中山留美子・中西良文・長濱文与・中島誠 2015(掲載決定) 初年次前期の授業での対人関係への動機づけが大学適応に及ぼす影響 心理学研究 86. (査読有)
2. 中西満悠・中谷素之・中西良文 2015 大学生を対象とした日本語版学業的満足遅延尺度の開発 パーソナリティ研究 23, 197-200. (査読有)
3. 中西良文・中島誠・下村智子・守山紗弥加・長濱文与・大道一弘・益川優子 2015 大学初年次教育科目における社会的動機づけに関する研究 三重大学教育学部紀要 66, 261-264. (査読無)
4. 高垣マユミ・中西良文・田爪宏二 2014 動機づけ構造を組み込んだ教授方略が協同学習における社会的関係性の変化に及ぼす効果 教授学習心理学研究 10, 25-34. (査読有)
5. 中西良文・松浦均・南学・松本金矢・根津知佳子 2014 地域における教育実地研究の実践 -志摩市片田中学校区を中心とした9年間の実践- 『大学教育研究-三重大学授業研究交流誌』 22, 55-59. (査読無)
6. 梅本貴豊・矢田尚也・中西良文 2014 方略保有感, コスト, 有効性が学習方略の使用に与える影響 三重大学教育学部紀要 65, 291-296. (査読無)
7. 高垣マユミ・中西良文・田爪宏二 2014 協同学習におけるメタ認知を促す教授方略が他者との関わりの変化に及ぼす効果 三重大学教育学部紀要 65, 283-290. (査読無)
8. 中西良文・中島誠・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・下村智子・長濱文与・中山留美子 2014 協同学習場面における社会的動機づけ尺度作成の試み 三重大学教育学部紀要 65, 335-341. (査読無)
9. 西村まりな・中西良文 2013 ルーブリックを用いた協同技能の評価に関する検討 三重大学教育学部紀要 64, 363-371. (査読無)
10. 中島誠・長濱文与・中山留美子 2013 授業評価へのフィードバックを授業中に実施する効果 『大学教育研究-三重大学授業研究交流誌』 21, 63-68. (査読無)
11. 中西良文 2012 Problem-based Learning (PBL) が自己調整学習方略使用および学習動機づけに及ぼす効果 協同と教育 8, 10-19. (査読有)
12. Umemoto, T., & Nakanishi, Y. 2012 Effects of practical lessons on promoting agency beliefs for strategy in middle school students. The Proceedings of the 15th European Conference on Developmental Psychology, 503-507, ECDP. (査読無)

[学会発表](計 24 件)

1. 守山紗弥加・下村智子・中島誠・長濱文与・中西良文 2015 初年次教育のプロジェクト活動における「調べ学習」からの脱却(2)-「主張」の構築をめざした指導上の工夫- 第21回大学教育研究フォーラム発表論文集 286-287. (京都大学) 3/14
2. 下村智子・守山紗弥加・益川優子・大道一弘・中島誠・中西良文・長濱文与 2015 初年次教育のプロジェクト活動における「調べ学習」からの脱却(1)-学生の立てる「問い」と「主張」の現状とその特徴- 第21回大学教育研究フォーラム発表論文集 284-285. (京都大学) 3/14
3. 中西良文・大道一弘 2014 概念変化を促す情報教示の影響が自己効力感によってどのように異なるか - 知識の正確性/知識再構築に対する自己効力感の観点から - 日本教育心理学会第56回総会発表論文集, 388. (神戸大学) 11/7
4. 中西良文・安永悟 2014 ラウンドテーブル「アクティブラーニングにおける学習者の「ラーニング」を考える - LTD・PBLにおいて学習者はいかにアクティブであるのか - 」 日本協同教育学会第10回大会発表論文集, 106-107 (創価大学) 10/25
5. 長濱文与・中西良文・中島誠・下村智子・守山紗弥加・大道一弘・益川優子 2014 協同作業に対する認識と大学生の大学適応との関連 日本協同教育学会第11回大会発表論文集, 70-71 (創価大学) 10/25
6. Yoshifumi NAKANISHI, Makoto NAKAJIMA, Yuko MASUKAWA, Kazuhiro DAIDOH, Tomoko SHIMOMURA, & Sayaka MORIYAMA 2014 Relationship between Social Motivation in Cooperative Learning and School Adjustment in the “First Year Seminar” for Undergraduate Students. The 28th International Congress of Applied Psychology (ICAP). Le Palais des Congrès de Paris, France.7/11
7. 中西良文・大道一弘 2014 知識の正確性ならびに知識再構築に対する自己効力感 日本発達心理学会第25回大会論文集 633. (京都大学) 3/22
8. 中島誠・中西良文・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・下村智子 2014 入学時の状態が初年次教育科目の成果に及ぼす影響 第20回大学教育研究フォーラム発表論文集 156-157. (京都大学) 3/18
9. 中西良文・下村智子・守山紗弥加・益川優子・大道一弘・中島誠 2014 プロジェクト活動を中心とした初年次教育科目受講による社会的動機づけの変化 第20回大学教育研究フォーラム発表論文集 60-61. (京都大学) 3/18
10. 西村まりな・中西良文 2013 読解の理解

- 深化を目指す LTD 話し合い学習法の実践 - 読解方略と動機づけに着目して - 日本協同教育学会第 10 回大会プログラム, 42-43. (札幌大学) 12/1
11. 市川大貴・中西良文 2013 大学生に対するグループワークを用いたスキルトレーニングの実践と効果 - レジリエンスの変化に着目して - 日本協同教育学会第 10 回大会プログラム, 54-55. (札幌大学) 11/30
 12. 中西満悠・中谷素之・中西良文 2013 大学生における学習への課題価値が学業的満足遅延と学習行動に及ぼす影響 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, 625. (法政大学) 8/19
 13. 中山留美子 2013 2 種類の自己愛と主張性の関連 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, 625. (法政大学) 8/19
 14. 中西良文 2013 PBL (Problem / Project-based Learning)によるメタ認知方略の促進(自主シンポジウム(企画者:瀬尾美紀子・伊藤崇達・塚野州一)「自己調整学習とメタ認知 - それぞれの研究成果を互いにどのように生かしていくべきか」) 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, 625. (法政大学) 8/19
 15. 中山留美子・中島誠・長濱文与・中西良文・南学 2013 学士力に対応した全学的初年次教育の展開 - 4 年間の取り組みに関する横断的検討 - 第 19 回大学教育研究フォーラム発表論文集 196-197. (京都大学) 3/15
 16. 中島誠・中山留美子・長濱文与・中西良文・南学 2013 学士力に対応した全学的初年次教育の展開 - セミナー導入前後の学びに関する縦断的検討 - 第 19 回大学教育研究フォーラム発表論文集 194-195. (京都大学) 3/15
 17. 中島誠・中西良文・南学 2012 ルーブリックによる大学生の就学達成度評価 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 465. (琉球大学) 11/24
 18. 中西良文・中島誠・中山留美子・長濱文与 2012 協同学習場面における社会的動機づけに関する研究(1) - 尺度作成についての検討 - 日本教育心理学会第 54 回総会発表論文集, 91. (琉球大学) 11/23
 19. 西村まりな・中西良文 2012 ルーブリックを用いた協同技能に関する検討(1) 日本協同教育学会第 9 回大会発表論文集, 16-17 (日本歯科大学新潟生命歯学部) 9/23
 20. 中西良文・長濱文与・中山留美子・中島誠・西村まりな 2012 協同学習場面における社会的動機づけと協同技能の関連 日本協同教育学会第 9 回大会発表論文集, 34-35. (日本歯科大学新潟生命歯学部) 9/22
 21. Nakajima, M., Nakanishi, Y., & Minami, M. 2012 Evaluation of Educational

- achievement. Poster session presented at the Annual Meeting of IIAI International Conference on Institutional Research and Institutional Management, Fukuoka, Kyushu University.9/21
22. Nakanishi, Y., Umemoto, T., & Tanaka, K. 2012 Changes in social motivation and learning strategies in PBL. COGSCI2012. Sapporo Convention Center (Hokkaido, Sapporo), Japan.8/3
 23. Umemoto, T., & Nakanishi, Y. 2012 The relationships between learning beliefs and subjective well-being. The 16th European Conference on Personality. Trieste, Italy.7/13
 24. 中西良文・南学・中島誠 2012 大学生における動機づけの発達的变化(1) - 全学的縦断調査における経年的変化の検討 - 東海心理学会第 61 回大会発表論文集 47. (日本福祉大学) 5/26

〔図書〕(計 5 件)

1. 長濱文与・下村智子・守山紗弥加・中島誠・中西良文・山田康彦・綾野誠紀・太城康良 (編) 2015 『三重大学 スタートアップセミナー 2015 年度版』 ムイスリ出版 68p(1-68)
2. 楠見孝・道田泰司(編) 坂本美紀・上地完治・武田明典・中西良文・南学(他 28 名) 著 2015 批判的思考: 21 世紀を生きぬくりテラシーの基盤 新曜社 285p(156-159)
3. 中島誠・下村智子・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・高山進・中西良文・山田康彦・長濱文与 (編) 2014 『三重大学 「4 つの力」スタートアップセミナー 2014 年度版』 ムイスリ出版 60p(1-60)
4. 速水敏彦(編) 速水俊彦・氏家達夫・藤村宣之・橘春菜・小塩真司・小平英志・平石賢二・中西良文・西田裕紀子(他 17 名) 著 2013 教育と学びの心理学 基礎力のある教師になるために 名古屋大学出版会 318p(81-88)
5. 中山留美子・中島誠・下村智子・大道一弘・益川優子・守山紗弥加・高山進・中西良文・山田康彦・長濱文与 (編) 2013 『三重大学 「4 つの力」スタートアップセミナー 2013 年度版』 ムイスリ出版 60p(1-60)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
 発明者:
 権利者:
 種類:
 番号:
 出願年月日:

国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中西良文 (NAKANISHI Yoshifumi)
三重大学・教育学部・准教授
研究者番号：70351228

(2) 研究分担者

長濱文与 (NAGAHAMA Fumiyo)
三重大学・教養教育機構・准教授
研究者番号：10555486

中島誠 (NAKAJIMA Makoto)
三重大学・教養教育機構・准教授
研究者番号：00555500

中山留美子 (NAKAYAMA Rumiko)
奈良教育大学・教育学部・准教授
研究者番号：60555506

(3) 連携研究者

高垣マユミ (TAKAGAKI Mayumi)
津田塾大学・学芸学部・教授
研究者番号：50350567